

第512回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年9月2日(水) 午前11:00より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
委員長 林 新一郎
副委員長 渡辺 重久
委員 加藤 恵美子
委員 笹本 正治
委員 佐藤 裕一
委員 瀧川 浩
委員 武重 正史
委員 南澤 光弥
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 (代表取締役社長)
太田 耕司 (取締役 報道制作担当)
飯塚 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)
春原 晴久 (報道制作局長)
早川 英治 (編成局長)
浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)
北沢 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

信濃国歴史シリーズ12 小諸城と城下町 』

令和2年5月29日(金) 夜7時00分～7時57分放送

(2) 視聴者対応報告（令和2年7、8月分）

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・ウィズコロナ時代なので感染症との闘いを小諸藩も当時からやっていたという古文書などもタイムリーで、タイミングもぴったり合ったなという感じも受けた。
- ・今回の番組で穴城という説明、前方に町を作って地形を利用して作ったというので勉強になり、学ばせていただいた。
- ・交通の要所だったということで栄えていたということと、今の比較みたいなものもあった方が、現代とのリアルな感じとのギャップみたいなものにも触れて良かったのかなと思った。
- ・いろんな視点から豊富な資料で構成しているということで、穴城と城下町との関係みたいなものを立体的に体感しながら見れたなと思った。
- ・空堀の所を武者と歩くのではなくて、ドローンが走っていくと良い画像が撮れたと思います。地面に近い空撮で動く画像みたいなのがあれば、城の複雑な構造を体感できたんじゃないかなと思った。
- ・お料理の紹介は、当時の小遣い帳から想像して料理を作ったと思うのですが、レシピがあったのかどうか疑問だった。
- ・高橋さんが大切なものを未来の人ために守っていかなければいけないという気持ちがきれいに表現されていて、そこはうまく表現できたんじゃないかなと思った。
- ・小諸と島崎藤村に関係のあるものもキーワードとして番組の中に出てくるのかなと感じて見たが、実際のところはそこに触れることなくエンドロールでこの歌が

出たということで、今回のテーマとの関連性というのはどうだったのかなと感じた。

- ・仙谷秀久公の時代の話かと思っていたら幕末の末期の牧野康哉公の頃にまで行っているということで200年くらいジャンプしていたりして、何となく時代の流れが分かり辛かったという感じはした。
- ・小諸の商家のお宅から貴重な資料が出てきて、なるほど、だから小諸というところは商人の町で、昔は百貨店もあってというのも分かった。
- ・小諸は背後に浅間山が控えていて、千曲川があって、河岸段丘の町ということで地形を利用しているので、逆にのっぺり感があって天然の要害で戦略的な城だったんだなと感じ、百名城に選定されているという理由がここで分かったかなと思った。
- ・CGとか紙芝居も局所的に使っていたが、後半の町の紹介等でも使えば良かったのではないかなと思った。
- ・豆腐の仕入れが多いとか楽しく見れたなと思ひ、改めて小諸が持っていたポテンシャル、城下町は多様な顔があって人の往来や物流も盛んだったんだなと感じた。
- ・もう1回歴史を理解するためには、当時の人たちが何を考えていたかという方向に行くと深みが増したのではないかと思う。
- ・バードビューと言うか、ドローンの目でいろんな普段我々が目にできないもの、気が付かなかったものを映像化し、さらに番組の厚みを加えて行って欲しい。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年7、8月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

以上